

中井だよい

中井やまゆり園

〇〇さんについて、私たちが語れること

生活第一課長 為田 徹

今年の梅雨は記録的な短さで、6月の後半は真夏のような気候となりました。利用者さんは連日の暑さにびっくりしながらも、例年よりも早い季節の移り変わりを感じていたようです。

さて当園では、今年の4月から外部の「支援改善アドバイザー」に来ていただき、日常生活支援や日中活動の方法などについて、助言や指導を受けています。

アドバイザーからの指導の中に、「中井の職員は利用者さんのことをどれだけ語れるのか」という話がありました。

これは、職員は利用者さんのことを、どれだけわかっているのか。年齢や障がいの特性など、資料に書いてあることだけではなく、「この利用者さんは何をしているときが幸せそうか」「何に困っているのか」「仲間（利用者同士）の中で、どのような存在か」「担当職員にとって、どのような存在か」「地域に移行するにあたり、壁になるのはどのようなことか」など、職員が利用者さんお一人お一人の「人となり」をしっかりと理解しているのか、ということです。

これまで当園では、「〇〇さんはどんな人？」と聞かれると、「時々大声を出す」「物を壊すことがある」など、良くない行動ばかりに着目していました。その結果、「騒がしくするから部屋に入ってもらおう」という不必要な居室対応をしたり、「壊されるから物は置けない」という誤った認識で一般の暮らしとはかけ離れた住環境にしてしまっていました。

これからは、ご本人の「人となり」に着目し、ご本人がいま何に困っているのか、何に生きづらさを感じているのかを考え、職員は何が出来るのかを利用者さんと一緒に考えていきます。

そのためには、利用者さんともう一度、しっかりと向き合い、これまでご本人がどのような人生を過ごしてきたのか、今後どのような人生を送りたいと思っているのかをきちんと受け止めていきます。

私たち職員が、利用者さんのことをしっかりと語れるように、利用者さんのことを改めてご家族・後見人の皆さまに教えていただきたいと思います。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。